誰も知らなかった真実の物語?!新・白山＝“ハム山”誕生物語

自己のワクワク“アセンション日記”より

世界初の **アセンション・アニメ?!**

『ハム(愛)パンデミック?!中今のハム山2025』

≪新・白山誕生物語≫

【4】

“山は山”としか思っていなかった地上セルフに、“白山”＝“宇宙”が見えてきました！^^

それは同時に、真の自己の姿、そして明確な目標が見えて来た?!でもあります。

自身が今生、地球に生まれてきた理由は、

NMC(新宇宙)の雛形となる“新地球”を創造していく為！

根源の愛でワンネスとなった、誰もが幸せと感じる世界、皇(根源)の星“地球”創生です！^^

それを可能にするのが、地上セルフに全宇宙高次を統合した神(天)人であり、

その中心に、NMCの核心“根源天照皇太神”＝“根源の究極の愛の太陽”が燦然と輝く

“皇人”なのだと思います。(皇は白き王であり、白山のイメージです。^^)

自身が皇人となるべく(＝根源へのアセンション！)、学びと実践を繰り返してきた

その過程から生まれたものが、『根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN』で、

それは、いつか根源へと届く！と信じて、見えない世界に立てかけた梯子のようなものでした。

いつ倒れるかもわからなかった梯子が、2025年の今、地球と根源をつなぐ揺るぎない柱

＝宇宙スシュムナーのように感じられ、同時にそれは、この地上セルフのスシュムナーでもあり、

愛の意志の第一光線でもあったのだ！？と。^^

過去に一度、地上セルフは何もかも信じられなくなってしまい😅(アトランティス末期時代?!)

『根源 AP・HAKU (hamu) SUN』を、完全にデリートしてしまった事がありました…

その時の自身の身体は、ふにゃり？とにゃり(笑)、本当に背骨が無くなってしまったかのようで、

起きていられなくなってしまったのでした。。。（そんなことってあるのですね…）

真に、人はミクロ・コスモス！　宇宙の雛形なのだと実感しました。^^

『根源アセンションプロジェクト HAKU（hamu）SUN』の中心となっているのは、

宇宙で最も古く、中今最も新しい、愛と光（叡知）のマスター連合

＝新・グレート・ホワイト・ブラザー・フッド（新 G、新宇宙聖白色同胞団）のネットワークであり、

白き神々の座＝新・白山を拠点とし、地上の新人類（神人）と全宇宙高次が協働して

愛と光の NMC（&新地球）を創造していく中心の柱＝“新・生命の樹”？がイメージされます！

（2012年の末、ロード・キリスト・サナンダのクリスマスメッセージの中にあった、あの生命の樹？^^）

中今、根源太陽神の元に、宇宙の全てのマスター方（天界の存在）が一つとなっていて

その総称が、新 G（WBH）でもあります。^^

2017年１月、天から降ってきた言葉？

2017年の幕が明けると、

「大風呂敷を広げる」という、地上セルフには意味不明の言霊が、

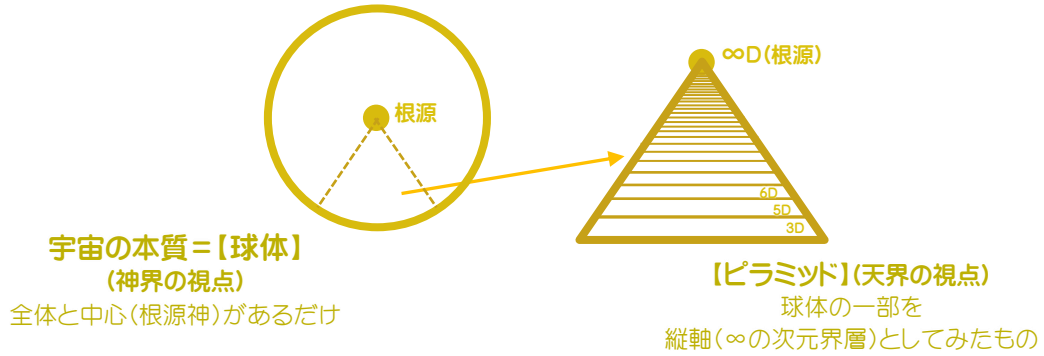
降りて？　浮かんで？　きました。^^

その言葉は、耳で聞いたのではなく、「上から降りて来た？」という感じ…、

「上にあるが如く下にも」＝宇宙を“ピラミッド”（縦軸、次元の階段）として捉えた感覚？であり

同時に、自身の「内側から湧いて出た？」という感じ…、

「内にあるがごとく外にも」＝宇宙を“球体”として見た感覚？でもあります。



これはアトランティスのマスターであったヘルメス・トリスメギストスの言葉とされます。

「上にあるが如く下にも」の部分は、知っている方も多いと思いますが、

「内にあるがごとく外にも」は、長い間隠されてきたとされ、

まさに、これまでの世界は、高低、優劣が中心となったピラミッド型社会であり、

これからは、中心と全体があるだけ（横並び、平等）の球体型社会へと移行していく事を

示しているのではないでしょうか？^^

パート【1】でも少し触れましたが、宇宙大のピラミッド（天界）の頂点は、球体（神界）の中心で

そこは、あらゆる全てが一つとなった究極の愛の源（根源）＝NMC の中心です。^^

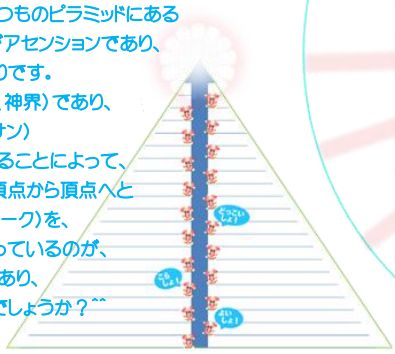
（以下は、3D 地上セルフが想像するこの度のアセンションについて、球体とピラミッドの視点でみたものです。）

〔ピラミッド〕

天界の象徴（天界的視点）

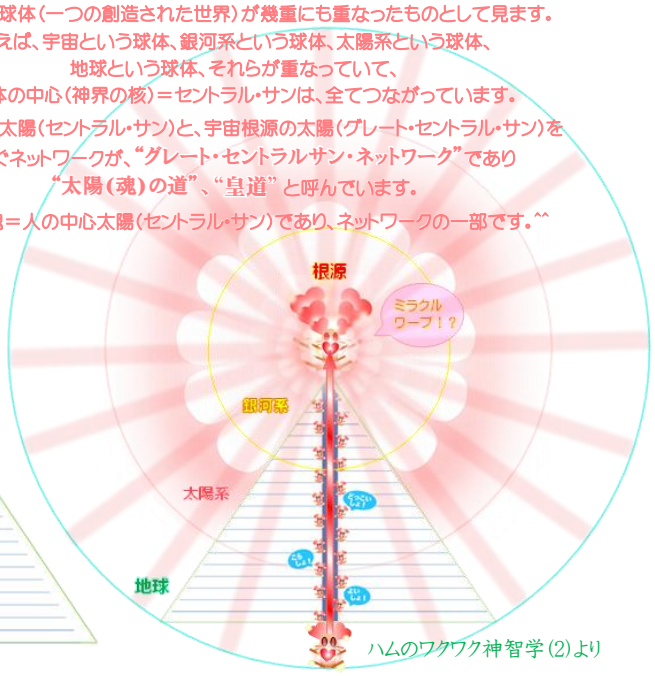
茫漠として捉えどころのない一つの球体（創造された世界）を、
縦軸として見たもの。（物差しをあてる感じ？）
ピラミッドの頂上は神界であり、その核はセントラル・サン（中心太陽）。
そこに到達すると、他のピラミッド（球体）が見えてくる？
（＝創造主神として、新たな球体の創造がはじまる?! ）

本来は、地球を卒業して、太陽系規模のピラミッドの頂点、
銀河系規模のピラミッドの頂点、各宇宙規模のピラミッドの頂点
というように、大宇宙の頂点（根源）まで、いくつものピラミッドにある
∞の次元界層を、一段一段上っていくことがアセンションであり、
気の遠くなるような長い道のりです。
けれど、自己の本質が魂（神の分御魂、神界）であり、
その核が太陽（セントラル・サン）
＝ピラミッドの頂点であることに目覚めることによって、
太陽から太陽へ、イコール、ピラミッドの頂点から頂点へと
太陽の道（セントラルサンネットワーク）を、
一気にワープしていく事が可能となっているのが、
中今の奇蹟のアセンションであり、
根源へのアセンションなのではないでしょうか？^^



〔球体〕

根源の愛が核となった、宇宙の本質（神界＝創造主の視点）
大宇宙を、球体（一つの創造された世界）が幾重にも重なったものとして見ます。
例えば、宇宙という球体、銀河系という球体、太陽系という球体、
地球という球体、それらが重なっていて、
各球体の中心（神界の核）＝セントラル・サンは、全てつながっています。
地球の中心太陽（セントラル・サン）と、宇宙根源の太陽（グレート・セントラル・サン）を
つなぐネットワークが、“グレート・セントラルサン・ネットワーク”であり
“太陽（魂）の道”、“皇道”と呼んでいます。
※人の魂＝人の中心太陽（セントラル・サン）であり、ネットワークの一部です。^^



ハムのワクワク神智学（2）より

グレート・セントラルサン・ネットワークは、“新 G”そのものであり、

先に述べた「上にあるが如く下にも、内にあるがごとく外にも」の言葉を残した

トート（ヘルメス・トリスメギストス）は、アセンディッド・マスターであり、新 G です。^^

2017年1月17日のブログに記していますが、

https://ameblo.jp/mugendai-ai-hikari/entry-12238866505.html

「大風呂敷を広げる！」の出所が、どこの誰なのか？単なる自己の妄想なのか？

当時の地上セルフには理解できませんでしたが、押し問答？（笑）の末（新Ｇは相当焦っている(^^;)

「根源アセンションプロジェクト HAKU（hamu）SUN」の始動ボタン?!を、

地上セルフが押しています？！

その前の１月11日、“1”が三つ並ぶ“始まりの日”に、

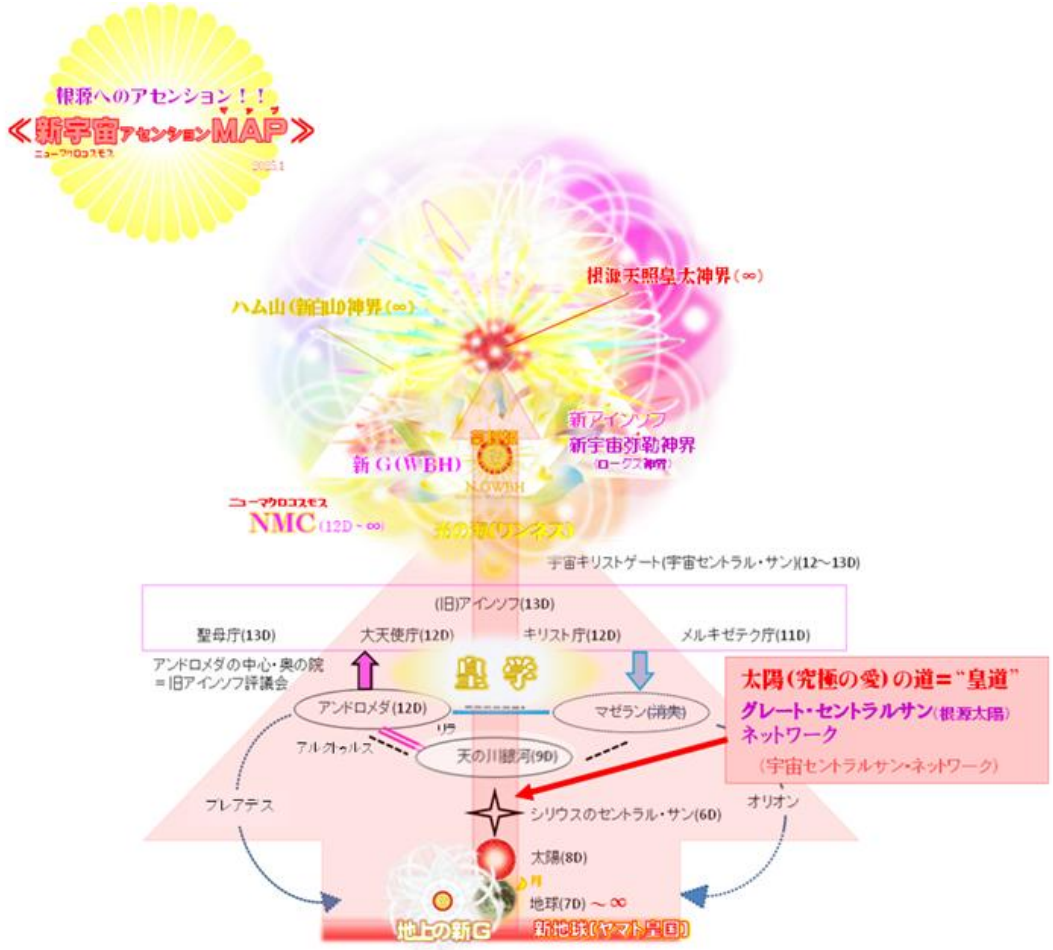
自身はこれまで一度も訪れたことのなかった、

白山比咩神社創祀の地とされる“舟岡山”を訪れ、新年のご挨拶をしていて、

まさにそれは、はじまりの時！だったのだと思います。^^

そして、この大風呂敷の中身とは、なんと！ 地上セルフが思い描く、新しい宇宙への地図?!

≪新宇宙アセンションＭＡＰ≫だった?!



とは（+o+）！！

2017年7月　再び白山頂上へと！

2017 年は白山開山 1300 年という、大きな節目の年であり、

なんとしても、もう一度、白山の頂上へと登りたい！との気持ちが抑えられず

体調不良を押して、2011年のあの時と同じ日を選び、決行しました。

“上がった所まで下りてくる”が、アセンションの法則、高次との統合の法則であり、

白山の頂上（宇宙の根源）まで地上セルフが上り、全宇宙高次と

“ハート”（愛の核心）で一つとなり、根源の究極の愛を叫ぶ！（大核融合を起こす）！！！

とのエネルギーワーク（御神事）を行う為です。^^

登りはじめてしばらくすると、足が動かなくなってしまいました。。。

これ以上の恐怖は無いと感じる程の、ある思いに囚われてしまったからです。

その思いとは、「もし、頂上に何もなかったら？」です。

自身は今まで何をやってきたのだろう、何の為にこんな苦しい思いをしているのだろう…

人体を動かしているのは心であり、希望の光である事が、はっきりとわかりました。

希望の光とは、内なる魂の輝きであり、自己の進むべき道をしっている、本当の自分です。

私達の魂は、あらゆる全ての命の源、一なる根源母神の“分御魂”です。

自身が真の自己（魂）に導かれ、これまで体験してきた、多くの喜びや感動、ワクワクは、

“魂の震え、振動”であり、すべての分御魂とつながっていて（共鳴の中にあって）、

そこにはいつも、神々の姿があった――、ではないでしょうか？

頂上を目指すのは、全ての分御魂＝神々と一体化し、根源母神のもとへと帰っていくため…

自身は、いつも一緒にいて導いてくれた、神々の愛と願いを、絶対に忘れない！

希望の光が蘇り、再び歩き始めました。^^

頂上まで、あと三分の一程の所へ差し掛かった頃でしょうか？大きく転倒してしまい、

心臓がドキッ！としたのですが、そのドキッが、ずっと続いている気がします。

手のしびれ、頭痛、吐き気、腹痛などの症状もあらわれ、再び立ち止まってしまいました。

今度は、“心”ではなく、“体”？

心臓が爆発するのでは？ここで無理をして倒れてしまったら、誰かに迷惑がかかってしまう…

迷っている時に浮かんできたのが、自身がこの登山に向けてしてきた言挙げ（宣誓）、

「自己の霊・魂・体のすべて、心臓を捧げます！」というものでした。

「そっかー、その通りだ…」と思ったら、それまであった心の動揺が、消えていきました。

「自分がした約束だから、それでいい――」、と思えたのです。

このまま立ち止まっていることは出来ない（倒れたらごめんなさい）…、再び足を踏み出しました！

後のことは、あまりよく覚えていないのですが、靴擦れでひどく足が痛み、それが

グラウディングとなっていた？＝天上の世界にいかずに済んだ?!（笑）のかもしれません。^^

頂上に到着した自身が思ったことは、何故愛を叫ばなくてはならないんだろう…でした。

何故なら、そこには“愛しかなかった?!”からです。

上がったところまで下りてくる…、地上セルフが全ての高次と一体となった頂上は、

愛でワンネスの世界！

「もう誰も（＝自分）傷つけたりしなくていいんだよー！　ここに帰ろう！！」

地上セルフは、そう叫んでいました。^^

この登山で最も不思議だったのは、地上セルフにとって、

不思議（奇跡）と感じる出来事が全くなかった、という不思議です？！

そう気付くことで、自身は自身の全てを掛けて全力でやり切った！！もう悔いはない！

という大きな自信が溢れ、それこそが、“自分自神”なのだ！と。^^

思えば、2011年の白山登頂は、（ハムも頑張っていましたが）ほぼ高次が主体となっていて、

見えない沢山のサポートに支えられていたのだと思います。

2017年は、地上セルフが主体となった?!　そう言えるのかもしれません。^^

地上セルフには謎だらけですが、もし、これらの高次の計画がわかっていたとしたら…

この登山に挑戦していたとは、思えません（笑）

こらからも、自己の直感を信じて、進んでいくしかないのだと思います。^^

2017年12月 聖徳太子が現われた約束の時、広隆寺？！

過去に遡ることになりますが、2015年６月

京都 KT セミナー・神事参加の前に、太秦にある広隆寺を訪れました。

“広隆寺”という名前は、まだ学生時代に、観光マップか何か？で目にしたのですが、

その時は特に意識する事もなく、引き出しにしまっておいた？という感じで、

やがて、それを取り出す日がくる事をしっていたかのような…、

自身にとって、特別な場所であったのだと思います。^^

広隆寺と言えば、国宝第一号とされる“弥勒菩薩半跏像”がよく知られていて

自身もその拝観を楽しみに、出かけていきました。^^

境内に入ると、正面に見えてくるのが、本堂の“上宮王院太子殿”です。

広隆寺は、聖徳太子の側近であった秦氏が建立したものである事は知っていましたが、

御本尊は、毎年11月22日に公開される秘仏の“聖徳太子像”であった事を

2017年になるまで知りませんでした。

上宮王院太子殿の中を、ガラス戸越しに覗くと、

あらっ、人？のようなものが、すぐそこに立っています？

等身大の人形のようでもあり、傍に(確か…)、「聖徳太子像」と書かれた札が置かれていて、

これが広隆寺の聖徳太子なんだ…と、不思議?違和感?満載(笑)の中で、

感謝のご挨拶を述べ、弥勒菩薩像がある、(新)霊宝殿へと急いだのでした。

2017年(特例法の公布)となり、令和の新天皇について語るTV番組を見ていると、

過去の大嘗祭の場面が出てきて、この衣装、どこかで見た事あるような。。。?

で思い出したのが、広隆寺で見た、あの聖徳太子像です?!

調べてみると、天皇だけが着用する事を許された"黄櫨染御袍(こうろぜんのごほう)"と呼ばれるもので、

歴代天皇より、天皇着用の装束と同様のものが、広隆寺の聖徳太子に寄贈され、

着せられている?!とのことです。

そして、太子像は、年に一度、11月22日にだけ公開される秘仏であるとの事、

自身はそこにあるはずのないものを見ていたことになります?

聖徳太子は推古天皇の摂政であって、太子自身が天皇であったわけではありません。

それなのにどうして、天皇着用の装束と同じものが着せられてきたのか?

そこには、重要な意味があるのではないでしょうか?

地上セルフには、カラスさん(八咫烏)が連想されます。^^

聖徳太子は陰から天皇を支える裏天皇でもあり、太子が広隆寺の核としたのが

"弥勒菩薩半跏像"="弥勒"菩薩です。

弥勒菩薩は、アルカイックスマイルと呼ばれる、美しく優しい笑みを浮かべながら、

どうすれば一切衆生を救う事ができるだろうかと考えている姿――とされ、

ドイツの哲学者ヤスパースは、「実存する人間の最高の姿」と絶賛したと言われます。^^

『天の岩戸開き』には、弥勒についてこのように記されています。

新アセンション宇宙は、中今で、創生されつつあるものですが、その大枠の構成は、

これまでの宇宙の高次のトップ&コアが更に進化して、マクロになったものです。

主には36(ミロク)次元以上が中心となっており、新アインソフでもありますし、

トータルでは、NMC神界と呼んでおり、別名、"新宇宙弥勒神界"とも呼んでいます。

聖徳太子が目指していたのが、まさに、この弥勒（ミロク）の世＝NMC であり、

自身は弥勒の世の始まりの時に広隆寺を訪れ、太子と会う約束をしていたのかもしれません。^^

聖徳太子が何故その時、自身の前に現れたのか？はわかりませんが、

一つ確かなことは、太子は自身の“産土神”であったという事です。

御祭神名が、“上宮之廐戸豊聰耳命（うえつみやのうまやとのとよとみみのみこと）”となっていて、ピンとこなかったのですが

それは『古事記』の中に出てくる、聖徳太子の名前でした。^^

故郷の神社は学校のすぐ隣にあって、毎日のようにその前を通っていたのですが

御祭神の名前も知らず、その前でキチンと手を合わせた記憶もありません。

人は産土神と約束をして、その地に生まれてくると言われ、自身が生まれてきた目的と

計画を知っている、大切なパートナーとも言うべき存在なのではないでしょうか？

その聖徳太子が、令和のはじまりを告げるかのように、自身の目の前に姿を現した？！

いよいよ、太子との約束を果たす時が来た！というメッセージだったのかもしれません。^^

聖徳太子が憲法第一条に掲げている、「和を以って 貴しと為す」は、

大和（おおいなるわ）の心、“大和魂（やまと）”そのものであり、日本の根底に生き続け、進化しつづけてきた、

救世の最強パワーなのではないでしょうか？

自身の故郷の神社はダム建設の為、現在は高台へと移遷されていますが、

それによって村の東西に分かれていたものが一つとなり、

中今の御祭神は、“聖徳太子”と“天照大神”の二柱となっています。

お二人の姿は、“伊邪那岐”と“伊邪那美”、“ニギハヤヒ”と“セオリツヒメ”、

“キリスト”と“マリア”のようでもあり、

“東と西”、“女性性と男性性”、“愛と神聖”等の様々な二極が統合された

これからの世界を象徴するものである気がします。^^

自身が村に住んでいた頃は、祭りの時期になると、相撲大会や盆踊りが行われ、

神社の境内は、喜びと活気に満ちていました。

神と人とが再び心を通わせ生きて行く、そんな時代がやってくる気がしてワクワクします。^^

2019＝令和元年は、開星元年？！

日本では2019年5月に、“令和”元年を迎えました。

（令和は、“万葉集”から生まれた言葉で、“調和の美”を表現したものであるとされます。^^）

“もう地球は、地球人だけのものでない！”

との内なる思いが溢れ、自身の根源 A（アセンション）P（プロジェクト）の地上基地？である、

『根源 AP･HAKU(hamu)SUN』に、2020 年、

<ユニバースのコーナー> が誕生しました！（地上セルフが勝手に創りました、笑）

そのきっかけとなっていたのが、2020年7月に、京都御所で開催されていた

【高御座等の一般参観】でした。

令和元年（2019 年）10月22日に、皇居で行われた即位礼の模様が再現されていて、

“高御座（たかみくら）”・“御帳台（みちょうだい）”や、諸儀式の写真、装束姿を再現する人形等があり、

令和の即位礼正殿の儀、京都版？！という感じです。^^

（昭和天皇までの即位礼は、京都御所“紫宸殿（ししんでん）”にて執り行われていたとの事。）

自身は、そのようなものが開催されていた事を知らずに訪れ、

偶然それを目にすることになった、ただの見物人だったはず…、なのですが、

後にその日の事を回想し、コンテンツを作成していると、

これまでの日本の歴史の全てと、それを支えてきた沢山の神々の姿が、

堂々としてそこにある事を感じ、“イニシエーション”という言葉が、明確に浮かんできました。

その場は、自身の“皇人”即位礼正殿の儀でもあったのです?!

京都御所“紫宸殿”

イニシエーション（通過儀礼）とは、誰かに認めてもらうとか、高次から何かを授かるといった
受動的なイメージがあったのですが、そうではなく、高次の波動との共鳴、一体化であり、
その先へ進む！という、能動的意志表示の場なのではないでしょうか？
京都でみた即位礼正殿の儀、それは“雛形”であり、新しい時代を創造していく、
私達一人一人にとっての、即位礼正殿の儀でもあるのだと思います。^^

そこには、もう一つの不思議が…。
その日いただいて帰ったパンフレットの、表紙に掲載されていた、“御帳台”の一部に、
美しい光のようなものが見えて、一瞬、あれっ？となったのですが、
施設内の照明か何かが写り込んでいるだけなのだと思い、見なかったことに（笑）
けれど、どんどん光が増していくような気がして…、ある瞬間？！
なんと、正装して御帳台の前に並んでいる、宇宙人さんの姿に見えてきたのです？？
（これまでの自身にはない、新しい発想です。笑）

当日いただいたパンフレットより
天皇の座“高御座”

皇后の座“御帳台”

この辺です？（笑）

自身は過去に、地球外生命体（宇宙人さん）と呼ばれる存在との接触や、
チャネリング等の経験はなかったので、ビックリ？！であり、感動でもありました。^^
けれど、そんなはずはない、ただの目の錯覚かもしれない…と思い、
思い切って他の方に聞いてみると、「何も見えない」との事、やっぱりか。。。でしたが、
アセンションは目に見えないエネルギーの世界であり、感じる事が全て！とされるのを思い出し
私に何か言いたい事があるのかも？と、見えない扉を開けてみる事にしました。^^
宇宙人？で浮かんできたのは“リラ星人”さんで、そう言えば、以前読んだことのある、
『プリズム・オブ・リラ』（リサ・ロイヤル著）の挿絵に似ている方もいる？気がします。
またその頃、嵐の『カイト』（作詞・作曲 米津玄師）が好きになって、よく聞いていたのですが、
歌詞の所々に共感を覚え、「溢れ出すラルラリラー」というサビ？の部分の、
心地良いフレーズが、自身の中に鳴り響いていて、
リラ星からの応援メッセージなのでは？と思えてきました。^^
このような事がきっかけでリラについて調べてみると、たくさんの情報と学びがありました。
情報は巷に無限に溢れていますが、波動の共鳴によって得られるものであり、
常に愛というアンテナを張って、自身に今必要と感じるものを選択するよう心掛けています。
自身のアンテナにひっかかったのは、以下のようなものです。^^
○リラは、宇宙空間に最初に存在した唯一の巨大惑星で、人型生命体のはじまりの星である。
○根源の光の源から生まれた“ヤハウェ”と呼ばれる存在が希求する、
根源との完全なる一体化、究極の愛の進化の道を、
共に歩み、分かち合うために創造したのが、リラ星（根源の愛と光の星）であった。
○リラ文明には、神官と巫女を中核とした12の民族（144の部族）があり、
そこに、ヤハウェの家族を加えた13の王族連合体が、その雛型となっている。
○人型生命体の始祖、肉体をもった神官“ヤハウェ”の子孫が、日本の天皇であり、
月は、日本を見守るヤハウェとその子孫の宇宙船でもある。
○リラは、「すべては一つである」という法則の元に、高度な文明を築き上げたが、

やがて、科学と精神のバランスを崩し、大爆発を起こしてしまい、

その粉々になってしまった破片を集めるようにして、新しい銀河が出来ていった。

○リラの崩壊をまねいたのは、2部族間での意見の対立、激化によるもので、後に起きた

大規模な宇宙戦争は、この時のリラが生んだカルマの反映であるとされる。

“アトランティス”や“レムリア”と呼ばれる、古代文明の繁栄と滅亡、

また、中今の地上にみる様々な争い等は、

創始の惑星である“リラ”のもつ遺産とカルマでもあり、全てがつながっていて、

「リラにはじまり、テラ(地球)に終わる――」の言葉の中に、

リラ星、そして銀河宇宙の全ての願いが、込められているのではないでしょうか？

最終地“地球”においてすべてが統合され、新たなる時代がはじまる！

地球は、宇宙のあらゆる全ての“希望の星”だった！！と。

ヤハウェの子孫が日本の天皇？との情報は初耳であり、驚きですが、もしそうならば、

令和の即位礼正殿の儀の御帳台の前に、リラ星人さんが正装で並んでいてもおかしくない?!

ではありませんか？（御帳台は皇后の座＝女性性、水瓶座の時代の象徴でもあるのでは？^^）

見えない世界の扉が開いた？！

その時、自室の左手窓の外に見える景色が、急に雨模様となり(反対側は晴れです？)、

その雨はすぐにあがり、やがて虹が現われました。

何か意味があるような？気がして思い出したのが、皇居で行われた、即位礼の日の事です！

ネット上には、「雨が降って、虹が出た！」「神話の再現！」「まるでファンタジー！」

との、感動と祝福のメッセージが寄せられていて、

自身もその日の喜びと感動を、追体験したのでした^^　嘘のようなホントの話し?!

みなさんの写真にも、何か不思議なものが見えてきませんか？

自室の窓から、普通に撮った
ある日の"月"の写真です。^^

月は、「日本を見守るヤハウェと、その子孫の宇宙船でもある――？」

について考えてみました。^^

月は、たくさんの謎に満ちている＝陰陽様々なエネルギーが交錯する場と感じます。

地球のすぐ傍を回る衛星であり、これまでの地球に、

最も大きな影響を与えてきた座標（＝エネルギー場）と言えるのではないでしょうか？

月は中今、太陽の光をそのまま地球へと届ける、究極のクリスタルへと進化し

地球では、月を中心とした長い薄明りの時代から、

すべてを明らかに照らし出す、美しい太陽の時代へとシフトした！

リラ星人さんたちはこの時の為に、月という座標（エネルギー場）に宿り、

地球を陰からサポートし続けていた――、との意味ではないでしょうか？^^

地球に対して月は、決まった面（片面）しか見せないと言われ、

その反対側には、驚くようなたくさんの宝物が、隠されているのかもしれません？！

想像＝創造であり、未来の現実！^^

つづく